

2024年

vol.479

7月 [July]

ぴっぷ



INDEX

営農情報	2～5	JAぴっぷ町のできごと	8～9
農作業中の熱中症に注意しましょう!!	6	インフォメーション	10
夏バテ・熱中症対策レシピ	7	理事会報告	11



JAぴっぷホームページ
<https://www.ja-pippu.or.jp/>

冷害危険期～出穂期、登熟期間の水管理

良食味米の安定生産には生育ステージに合わせた水管理、遅発分けつ、遅れ穂の抑制と整粒歩合、不稔防止、中干しによる根の活力向上など、各水管理の実施タイミングをしっかり見極め、収量・品質の向上に努めましょう。

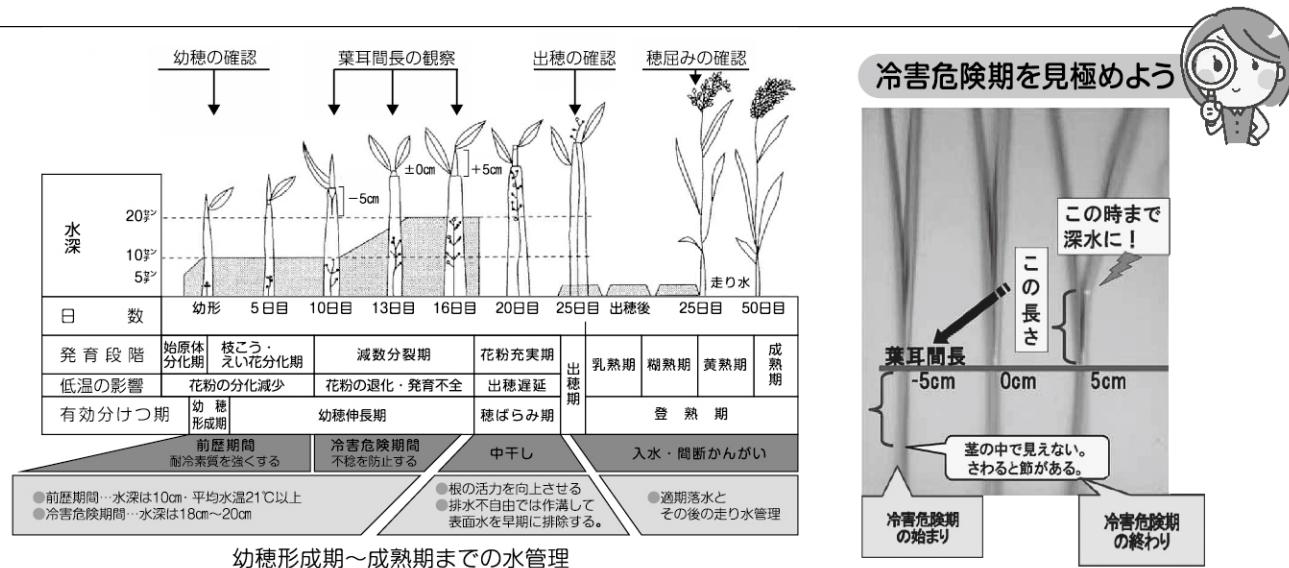
1. 不稔軽減に向けた水管理

(1) 冷害危険期の深水管理～水深20cmを目安に幼穂を保護～

前歴期間および冷害危険期に低温に遭遇すると不稔粒が発生します。不稔粒の発生は品質の低下（着色粒の発生など）や蛋白質含有率を高め、食味の低下にも影響します。冷害危険期の判断は、止葉と前葉の付け根にある「葉耳」の間隔（葉耳間長）を計測して決定します。この時期は幼穂の伸長に合わせて水位を高めていき、最大水深は18～20cmを保ち、低温から幼穂を保護します。

深水管理は遅れ穂の発生を抑制し、整粒歩合を高めます。好天であっても深水として下さい。特に、低温の予報は直前に出されることも多く、予報が出てから水を入れる場面では水の取り合いが見られることがあるため、幼穂形成期を確認したら中干しは中止して必ず水を入れるようにしましょう。

幼穂形成期の把握は、前歴期間以降の水管理と生育の遅延診断にとって極めて重要です。くみあいだより5月号の岩農情報を参考に幼穂形成期の確認をお願いします。



「深水管理」作業のポイント

- ①「深水かんがい」が出来る環境を整えよう！
 - ・低温から幼穂を守るために『深水かんがいの徹底』を心掛けてください。
 - ・普段から深水管理ができる環境を整えてください。

⇒畦畔の整備・水尻の強化などの漏水防止対策の徹底！
- ②圃場ごとに「幼穂形成期」の確認を！
 - ・『幼穂の伸長に合わせた深水かんがい』を実施するため、ほ場・品種ごとに幼穂形成期の確認をします。

- ・幼穂形成期確認後は中干しを中止し、幼穂の伸長に合わせて水位をあげていきます。
- ③冷害危険期→「花粉を低温から守ります」
 - ・『低温によって不稔が最も生じやすい時期』です。
 - ・幼穂形成期からおおむね10日後に始まり、その後1週間程度続きます。

⇒冷害危険期は『可能な限りの深水を徹底』しましょう！（理想は水深18～20cmとし、低温から幼穂を保護します。）

(2) 耐倒伏性向上と蛋白質含有率低下のためにはケイ酸資材の追肥を

ケイ酸資材の追肥を実施することにより、茎の強度が向上し、**耐倒伏性が向上します。**健全な水稻は大量のケイ酸を吸収し蓄積しますが、**多くの圃場で土壤中可給態ケイ酸含有量（基準値16mg/100g以上）が不足しています。**

葉全体が直立することにより、下葉にも太陽光が当たるようになり、でんぶんの成分と転流が活発になる為、蛋白質含有率が下がり、**登熟・食味の向上**などが期待できます。

幼穂形成期から1週間後までにケイ酸資材の追肥を行うと効果的です。

(3) 深水管理の終了～中干し、溝切りにより根の活力を高める～

長期間の深水管理により、根の周囲は酸素不足となっています。冷害危険期終了後、直ちに落水し、出穂直前まで中干しにより根圏に酸素を供給し、根の活力を高めます。中干しは、地表面を固め稻の倒伏を防ぎます。また、排水不良田では、出穂後の水管理を容易にするため溝切りを行い、排水路につなげて表面水の排水に努めましょう。

2. 根の活力を維持し登熟を高めよう

出穂初めから登熟期の水管理～適切な水管理で登熟促進、落水時期にも注意～

出穂が始まると速やかに入水します。登熟期間は土壤水分が少なくなると登熟不良による収量、品質の低下を招きます。

(1) 出穂・開花時は湛水状態に

水稻は出穂・開花が始まると急速に子房（玄米）が肥大を始めるため、十分な土壤水分が必要です。出穂を確認したら土壤水分をしっかりと保持することが大切です。

(2) 高温には要注意

出穂後10日間の気温が高いほど、胴割れ米の発生が多くなるとされています。でんぶん蓄積の異常により、割れやすくなると考えられています。

○登熟初期に高温になる日において、可能であれば用水かけながらによりほ場温度（地温）を下げる水管理を行いましょう。実施の目安は、出穂後20日以内で、日中の気温が29°C以上、夜間も23°C以上になる日が5日以上続くと予測される場合です。

○用水の確保が難しい圃場においては、

- ・用水路、畦畔、水尻等の漏水の防止の徹底
- ・ほ場を選択して、1筆毎、確実に入水する
- ・出穂期および出穂後7～10日後に水が行き渡るよう計画的に入水を行う
- ・可能な限り湛水状態を維持する

3. 胴割れ被害の回避に向けて

胴割れは粒乾燥時における急激な水分低下などで発生しやすく、稀に立毛中の米粒が吸湿や放湿を繰り返す事でも発生する場面があり、今まででは収穫期以降の生産管理が重要視されていました。しかし、近年の研究で登熟初期の気象条件も胴割れの発生に関与していることが示され、出穂後10日間の日最高気温、特に出穂開花後6～10日後までの平均日最高気温が高いと特異的に増加することが分かっています。

近年は異常高温に遭遇する機会が多くなり、発生リスクの低下に向けて、作期中の栽培管理についても注意する必要があります。

▶対策「登熟期の高温対策」

白未熟粒も同様で、登熟初期のほ場乾燥により多発します。過熟乾になると発生リスクが高まります。こまめな水管理を行い、発生を抑制しましょう。穂揃い性の向上で初期生育のよい米作りを行ってください。

▶対策「登熟期の土壌水分確保」

登熟中の土壌水分不足は、胴割れだけでなく、収量や品質の低下にも直結します。前ページ「2. 根の活力を維持し登熟を高めよう」を参考にほ場管理を行い、適期収穫をしましょう。

4. 登熟仕上の水管理

早期の落水により、ほ場が乾燥状態となると不完全米、くず米、胴割れ米などが増加します。

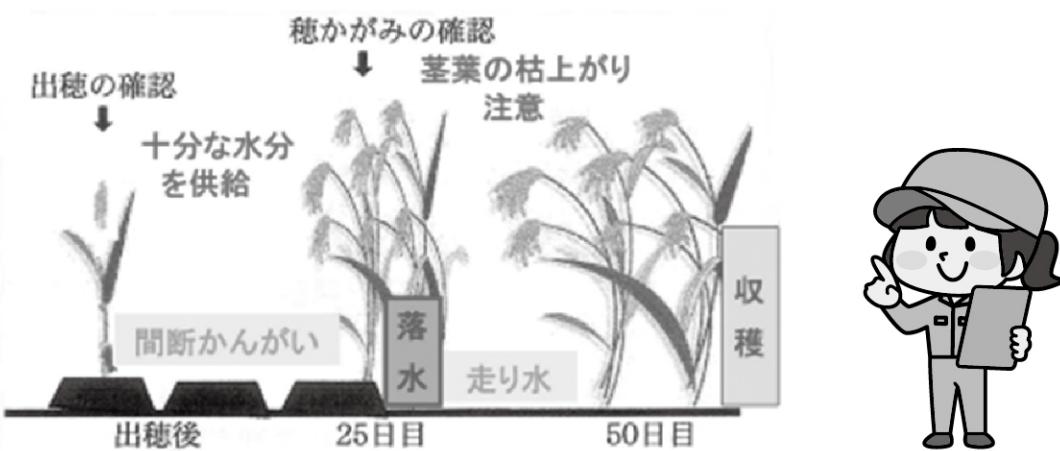
落水時期の決定は、コンバインの作業性を考慮することも大切ですが、米粒の生長を阻害させない土壌水分の確保を優先して決定しましょう。

排水良好田（褐色低地土）では、穂かがみ期（出穂期後25日頃）以降に行うのが原則です。穂揃い期の状況や登熟状況をよく観察した上で落水しましょう。なお、湿田や、透水不良田の落水時期は、出穂期～出穂期後7日目が目安です。

また、用水路の断水前に一度5～10cm程度の湛水とし、落水後の土壌水分を適正に保つことも大切です。

排水不良田（グライ土・泥炭土など）では、出穂期～出穂揃いの落水となります。1cm以上のヒビ割れが生じないよう、適宜走り水を実施しましょう。

収穫10日前頃までは土壌表面に1cm以上の亀裂を入れないような水管理を行いましょう。



登熟期間の土壌水分が収量と品質に及ぼす影響

土 壤 の 状 態	収量への影響	品質への影響
作土に深い大亀裂生成、水稻根の切断を確認	×	×
作土に幅1cm程度の亀裂多数、足跡がつかない	△	×
表面に小亀裂生成、わずかに足跡がつく	○	○

注) ○: 良好 △: 境界領域 ×: 不適

病害虫防除 予察を徹底しましょう

○いもち病

ア.いもち病の発生が懸念される水田（茎数過多、葉色が濃い、風のたまる場所など）で、薬剤の育苗箱施用や水面施用剤を散布できなかった場合は、7月上旬～中旬頃に予防剤の茎葉散布を検討してください。

イ.葉いもち病の発生予察を実施しましょう。予察にあたっては、病害防除所のホームページで公開されている「BLASTAM情報（葉いもち病発生予測システム）」を参考にして下さい。感染好適日、準好適日となった日から7日後をめどに、例年発生しやすい水田を重点的に観察し、発生を確認したら、5～7日間隔で防除を行いましょう。

ウ.出穂期の防除は、節・葉いもちの感染防止のため必ず実施してください。

▶北海道病害虫防除所ホームページ
「BLASTAM情報
(葉いもち病発生予測システム)」



○カメムシ（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

ア.水田への飛び込みが集中する出穂期と、その7～10日後は必ず防除を実施しましょう。出穂期の把握と予察を行い、適期に防除しましょう。

イ. フェロモントラップによるカメムシの発生状況を、資材店舗への掲示と、LINEによる配信で随時お知らせします。フェロモントラップの設置は7月10日頃～の予定で、配信は13日頃～を予定しています。



LINEの登録は
こちらから

畦畔等への農薬散布は細心の注意を！

除草作業のために畦畔や敷地周辺への除草剤散布が増えているのに合わせて、隣接する水田や畑へのドリフト（飛散）による作物への生育被害等が近隣の町村でも散見されています。「作業に慣れているから大丈夫」や、「少しくらいかかるても平気だろう」などの油断もドリフトが発生する要因の一つです。



もしも残留農薬が検出された場合は、調査料金や、被害に応じた補償等が発生する場合もあります。周辺に水田や畑、ハウスなどがある場合は、風向きやハウスの開閉状態などを十分に配慮してドリフトを未然に防ぎましょう。

基幹防除までに畦畔や雑草地等の雑草刈取りを終わらせ、カメムシの発生源を無くしましょう。特にスズメノカタビラは早期に無くしましょう。

»» 次年度へ向けて ○育苗用ハウスの土壌診断(pH診断)を行いましょう。

水稻床土のpH値の矯正は秋頃までに実施しましょう。pH値が適正值でないと病害が発生したり、苗が必要な養分を十分に吸収できず軟弱な苗になりますので、本年生育不良が見られた床土は積極的に土壌診断を行い、ムラのあった箇所は他の採取箇所と分けて出す様にしましょう。（図1参照）また、採取する際の深さはおよそ10cm程度で採取しましょう。（図2参照）

土のpH値の測定は常時営農課で受け付けておりますので、是非ご利用ください。（土は乾燥させてから持参してください）

図1 生育ムラが見られたハウスの採取法

それぞれ1か所ずつを取り、
混ぜずに土壌分析に出す。

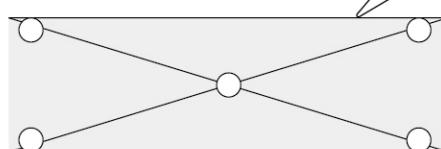
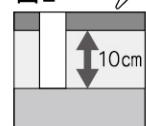


図2





熱中症は予防が大切です

農作業中の熱中症に注意しましょう!!

近年、7月から8月にかけて厳しい暑さが続き、35°Cを超える猛暑日を記録する日も珍しくありません。今年の夏も平年並みか、平年より高い気温が予想されており、厳しい暑さが予想されます。

熱中症は夏の気温が高い日に直射日光が当たる場所や、湿度の高い場所にいると急に体調が悪くなり、けいれん・めまい・失神・頭痛・吐き気などの多くの症状をあらわし、最悪の場合は死に至ります。

それほど暑く感じなくても、気がつかないうちに熱中症になっていることがありますので、予防に努めることが大切です。

[熱中症の症状]

軽



- ・めまい
- ・たちくらみ
- ・多汗
- ・のどの渴き
- ・けいれん
- ・顔色が悪い
- ・失神
- ・呼吸数が増える

中



- ・頭痛
- ・吐き気
- ・虚脱感
- ・高体温(38~40°C)
- ・おう吐
- ・疲労感

重



- ・手足が動かない
- ・呼吸が浅い
- ・呼びかけても返事がおかしい
- ・体に触ると熱い



熱中症にならないために

- 日中気温の高い時間帯をなるべく避けて作業を行う。
- 作業は2人以上で行い、定期的に異常がないか確認し合う。
- 休憩時は作業着を脱ぎ、手足を出し体温を下げる。
- 熱や湿気がこもりやすいハウス等の施設内作業では風通しを良くするなどの対策を。
- のどが渇いていなくても何度も休憩をはさみ、こまめに水分と塩分を補給する。

熱中症の処置

- ・涼しい場所へ避難
- ・服を緩め、風通しを良くする
- ・身体に水をかけ、うちわなどで扇ぐ
- ・脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やす
- ・水分と塩分を補給

※上記の処置をしても体調が良くならない場合は医療機関での手当が必要

熱中症における後遺症

重度の熱中症にかかった後、体が回復するまでに時間がかかります。まず、熱中症の症状が治まるのに2~3日、体が回復するのに1週間くらいです。そして、完治するまでは1~6か月かかります。

処置の判断を誤ると脳に重い障害が残る場合もあります。熱中症は重症度が高く処置が遅くなるほど後遺症に繋がりやすくなるため、熱中症が疑われるときは早期に医療機関を受診することが大切です。

正しい対策と適切な処置で熱中症を防ぎましょう。

すぐに飲めるよう
水筒などに入れて持ち歩きましょう！



手造りスポーツドリンク

〈材 料〉

●水	600 cc
●砂糖	大さじ3強
●塩	小さじ1/5
●レモン汁	大さじ1と1/2

〈作り方〉

- ①水600ccに砂糖と塩を混ぜて溶かし、レモン汁を加える。



夏バテ・熱中症対策レシピ

夏バテ予防に必要な炭水化物・ビタミンB1・ビタミンCが取れるお手軽料理

トマトとオクラのそうめん

〈材 料〉

●そうめん	200 g
●水（そうめんゆで用）	1 L
●オクラ	6本
●塩	小さじ1
●トマト	1/2
●豚肉（しゃぶしゃぶ用）	6枚
●めんつゆ（3倍濃縮）	50ml
●水（つけ汁用）	150ml



〈作り方〉

- ①オクラを板ざりする。鍋に水と塩を入れてゆでる。柔らかくなったら水に落として冷ます。水気を拭き取る。
- ②トマトは一口大に切る。
- ③オクラはがくから上を切り落とし、小口切りにする。
- ④豚肉をゆでる。
- ⑤鍋にお湯を沸かしてそうめんをゆでる。冷水で冷ます。
- ⑥そうめんを器に盛り、その上にゆでた豚肉とオクラをのせて、トマトを散らしたら出来上がり。

ワンポイント♪

予めつけ汁を作って
冷蔵庫で冷やしておくと、
より一層冷たく頂けます♪





5月

青果物の出荷

5月には、大根・いちご・ほうれんそう、6月には、さやいんげん・トマト・きゅうりが出荷され、7月からはオクラが出荷される予定です。

春先の低温の影響もありましたが、7月には各品目の出荷が揃い、秋頃までの収穫を予定しています。



いちごの出荷（5月～11月まで）

5月
10日

田植え作業

水稻の田植え作業が5月10日頃から始まりました。

田植え期間中に気温が下がり、5月末まで寒い日が続き移植した苗の生育が心配される

ところでしたが、6月には回復して、町内農村部がきれいな緑色に染まりました。

今後も水管理など、ほ場の巡回を行いながら、収穫の時期まで大切に育てられます。



10区 植村 好夫さん



20区 鎌倉 隆幸さん



担い手に役立つ 営農技術や流通盛りだくさん

購読のお申し込みはJAへ
購読料 1ヵ月2,520円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<http://www.agrinews.co.jp>

協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動



J A ぴっぷ町のできごと

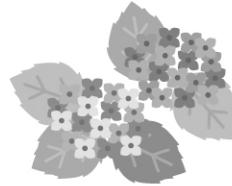
6月
4~7日

令和6年度 経営所得安定対策等交付金の申請受付の実施

令和6年度の経営所得安定対策等交付金の申請受付を農協会議室にて行いました。

6月4日～6月7日までの日程で、地区ごとに開催日を設定し、転作計画の確認や、経営所得安定対策の説明を行いました。

多忙な農作業の最中、足を運んで頂きありがとうございました。



6月
17日

町内でのいちご狩り始まる

今年も比布町内でのいちご狩りが6月17日から順次始まりました。

今年は「けんたろう」の1品種で、5農園で開催されました。6月下旬には町内のいちご狩り農園にはたくさん的人が来園されました。いちご狩りは7月上旬頃まで続く予定です。



第26回
上川農試公開デー
入場無料!! 雨天決行

上川農業試験場では、みなさまに試験場の仕事を理解していただくため、公開デーを開催いたします。入場は無料で、雨天でも実施します。みなさまのご来場をお待ちしています。

日時：8月8日(木) 10:00～14:00

場所：上川農業試験場(比布町南1線5号)

- 研究ほ場見学バスツアー
- いろいろ体験コーナー
- 何でも農園相談（土や病害虫の診断も）
- 農業機械の紹介
- クイズラリー
- 地元特産品販売など・・・

多數のイベントを
ご用意しています

ほか林産試験場と北方建築総合研究所の出展も予定しています。
(内容は変更する場合があります)

問い合わせ：上川農業試験場 TEL 0166-85-2200

BOARD REPORT

理事会報告

次の議案について協議し、承認されました

第4回理事会

令和6年5月8日

- ①出資金の異動について
- ②ディスクロージャー誌の作成について

第5回理事会

令和6年6月14日

- ①定期監査報告
- ③規程類の一部変更について
- ②出資金の異動について
- ④夏期手当の支給について

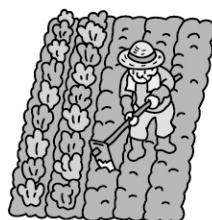


高品質生産につながる 土壌診断を活用しましょう。

3,366円(税別)の土壌診断料に対し

米麦改良協会より2,800円の助成が受けられます。(水稻・麦のみ)

土壌診断を行う事で、土壌の状態を正確に把握し、診断結果に応じた施肥改善を行う事で、高品質な農産物の生産に繋がります。9月頃ご案内しますので、ぜひ活用ください。



畦畔等の草刈を実施しましょう

良質な農産物の生産には、ほ場周辺での害虫の発生を防ぐ事が重要です。病害虫の発生源とされる、畦畔及び転作田等の適正管理の為、畦畔や用水路・公共地の草刈を7月15日までに行いましょう。

草刈を行う前に機械等の点検を行い、事故防止に努めてください。刈り取った草は焼却しないようお願いします。また、用排水路には捨てないようにしましょう。



農繁期のための

時短料理

オクラの唐揚げ

今日は、おやつにもおつまみにもなる、『オクラの唐揚げ』をご紹介します。



[材 料]

●オクラ	6本
●塩	小さじ1/2
●しょうゆ	小さじ1
●チューブにんにく	1cm
●片栗粉	大さじ1
●サラダ油	適量

POINT

木が湿ってしまうとはがれやすくなるので、
片栗粉をつけたら手早く揚げはじめてくださいね。

[作り方]

- ① オクラに塩をまぶして板すりをする。
- ② ①を洗って水気を取りヘタとガクを取ったら1~2cmに切る。
- ③ 容器(ビニール袋でもOK)にしょうゆとにんにく、②を入れてなじませる。
- ④ 片栗粉を2~3回に分けて入れてまぶす。
- ⑤ サラダ油(鍋底スレスレ以上)を中火にかけて、温まったらオクラを入れて焼き目が着くまで揚げる。
- ⑥ 油を切ったら出来上がり!



葬儀・法要のご用命は…

24時間 365日対応

JJAびっぷく町 生産資材課へ



突然のご不幸。即時対応致します。
葬送の儀すべて真心こめて
お手伝い致します。

■お問合せ先 JJAびっぷく町 生産資材課

資料店舗 ☎85-3115

農協担当者携帯 080-5722-4171

～仏壇・墓石のご相談賜ります～

提携葬儀社:旭川公益社 TEL(0166)52-1211

「if共済会」のご案内

基本葬儀料の10%が「弔慰金」として受け取れます。詳しくは上記までお問い合わせ下さい。

JJAびっぷく町公式 SNS

JJAびっぷく町では、公式SNSで、JJAびっぷく町からのお知らせや、営農情報などを発信しています。広報誌では掲載できないカラー写真や動画なども配信していますので、忙しい時でも情報を受け取ることの出来る公式SNSを是非ご利用ください。



LINE公式アカウント

JJAびっぷく町からの無線放送の一部をお届け。

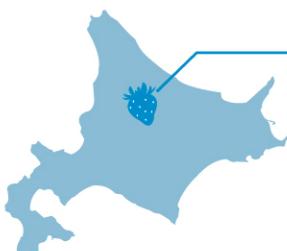


Facebook

JJAびっぷく町からの営農情報や、各課からのお知らせなどをお届け。

▶ 編集後記

4月に気温が上昇し、田植え時期も暑くなるのを想定していましたが、一転して5月中旬の田植え時に気温が下がるなど季節が逆転したような寒さでした。それでも、6月には回復して例年通りの気温に戻り、暑い夏の気配が感じられるようになり安心です。



JJAびっぷく町くみあいだより Vol.479

比布町農業協同組合

〒078-0342 北海道上川郡比布町西町3丁目5番14号 TEL0166-85-3111

ホームページ <http://www.ja-pippu.or.jp/>

●発行／令和6年7月 ●発行者／大西 勝視 ●編集責任者／営農課